

第1回 福岡県環境審議会 環境総合ビジョン専門委員会 議事要旨

1 開催概要

日時：令和3年5月11日（火）10:00～11:40

場所：オンラインでの開催

出席：浅野直人委員長、伊藤洋委員、伊澤雅子委員、岩熊志保委員、佐藤しのぶ委員、馬奈木俊介委員

2 議題

- (1) 福岡県環境総合ビジョン専門委員会における会議の公開について
- (2) 環境総合ビジョン策定に係るスケジュールについて
- (3) 各種アンケート調査結果について
- (4) 環境総合ビジョンの骨格（案）、柱とテーマ（案）、素案について
- (5) 新国富指標の活用（馬奈木委員提供）

3 議事概要

- (1) 福岡県環境総合ビジョン専門委員会における会議の公開について

（事務局から説明）

- 資料3に沿って説明。

（委員質問・意見）

- Web開催での公開方法は規定にないので、今後の対応について事務局で検討いただきたい。

- (2) 環境総合ビジョン策定に係るスケジュールについて

（事務局から説明）

- 資料4に沿って説明。

（委員質問・意見）

- なし。

- (3) 各種アンケート調査結果について

（事務局から説明）

- 資料5に沿って、環境に関する福岡県民意識調査結果について説明。

- 資料6に沿って、環境に関する市町村アンケート調査結果について説明。

（委員質問・意見）

- 筑後地方では傾向が他の地域と異なるようだが、何か特別な取組をしているのか。

- 【事務局】筑後地域については、前回のアンケート調査（平成28年度実施）の際も、高い割合であり、比較的、環境への関心が高い土壌があると考えられる。

- 久留米市実施のくるめ環境フェアなど、北筑後では環境に関するフェアを長年続けられている。このような啓発により環境に対する意識が高いのではないかと推察する。

- これらの調査結果を環境総合ビジョンにどう位置付けるかが重要である。各地域の関心の高さが見えるようにできれば、答えた人にとっても回答した意味が出てくる。

- 県民が環境について満足している点、不満足な点などは市町村ごとにばらつきがあると思うが、各市町村へはフィードバックしているのか。

- 【事務局】この報告書（をベースとしたもの）は県HPで公開しているが、各市町村

へのフィードバックまではしていない。

- 【環境政策課長】御指摘のとおり、各市町村においても市民の意識を把握することは重要である。今後は、本調査結果について市町村にフィードバックしたい。
- （県民意識調査結果の）6 ページの内容は、環境審議会（環境総合ビジョン専門委員会）で議論することで網羅できている。県民の関心は身近な問題に集中している。一方、グローバルな点には関心が低いため、環境政策に反映することは難しい。政策的にこの結果をどうフィードバックするかは議論しないとイケない。
- 満足な点、不満足な点のそれぞれにおいて、同じ項目が上位に並んでいるのは面白い。福岡地域、なおかつ女性は空気の汚れを気にしている。この原因は PM2.5 である。PM2.5 は一時期騒がれたが、最近はよくなってきており、不満足度は低くなってきている。これなどは、PM2.5 の健康リスクについて環境省が発信している情報を、福岡県が発信できていないことを表している。近年、PM2.5 等の状況はよくなっているのだが、環境基準を超えていなくても注目される状況があったため、アンケートをとるとこうなってしまう。

(4-1) 環境総合ビジョン 骨格（案）について

（事務局から説明）

- 資料 7 に沿って説明。

（委員質問・意見）

- 事務局から説明があった「経済と環境の好循環」は、古い表現となっている。また、環境政策の計画であるので、「環境と経済の～」の順とした方がよいのではないかと思う。
- 同意見である。環境総合ビジョンであるので、環境が経済より先に来ないと違和感がある。
- 同意見である。
- 両立という言葉は対立もありえるが、好循環という言葉は、どちらもよくなっていくらせんのような概念を示している。なお、最近では「環境と経済」だけでなく「社会」も含めて統合的に向上していくことが言われているが、柱 6 が「経済・社会の～」となっているので、将来像のフレーズには入れなくてもよいかと思う。
- 環境と経済についてはよいと思うが、それらの「相互依存」など、他によい言葉がないか考えてもよいと思う。
- 県民の立場からするとちょっと固い印象を受ける。
- これらの意見について「経済と環境～」の順番を入れ替えることを前提に、事務局で検討されたい。

(4-2) 環境総合ビジョン 柱とテーマ（案）について

（事務局から説明）

- 資料 8 に沿って説明。

（委員質問・意見）

- 事務局から説明があったとおり、温暖化や自然共生については同時並行で計画策定が進むので、そのことを加味して、追加すべき項目等について御指摘いただきたい。
- 自然共生社会の分野について、普及啓発・環境教育の部分が弱いと感じている。特に、ワンヘルスの概念について、正しく理解している人はほとんどいない。環境教育・普及啓発は、ビジョン全体に横断してしまうが、教育・啓発に力を入れていくことは大きな課題と思う。

- 非常に悩ましいところだが、環境教育・普及啓発は柱7の人づくりに含まれており、横断的にそれぞれの柱に関連する書き方になっているのでこれでいいと思うが、委員の意見はいかがか。
- 自然分野での環境教育に携わっているが、図で柱7が（横向きに）描かれているように、全ての柱で横断的に環境教育を進めていくことを、皆さんに認識していただくのがよいと思う。
- ワンヘルスについては条例もでき、自然共生社会のところで、小テーマとして項目出しするという案だが、委員の意見はいかがか。
- ワンヘルスの概念は難しく、所属学会でも議論になっている。誤解も多い概念なので正しいことを理解していただくよう普及啓発していくことはよいと思う。
- ワンヘルスの県庁内での所管はどこか。また、環境分野とワンヘルスとのつながりをどう考えているか。
- 【環境政策課長】所管は、保健医療介護部のワンヘルス総合推進室である。環境部としては、自然環境の保全がワンヘルスの理念の実現につながるという考え方である。
- ワンヘルスという概念を打ち出すことには反対しないし、進めてもらってよいが、ワンヘルスとはどういう概念かを整理することが大事である。開発を一切認めないというような、絶対的な自然保護の概念とは違うので、そういった文脈で使われると誤解を招く。一方で、生物共生との親和性は高いと思う。自然環境課の考えはあるか。
- 【自然環境課長】一般的には人獣共通感染症が注目されているが、自然環境課としては、野生動物の状況や、野生動物による人や家畜への影響などを調査・監視し、それらの分析・評価については他部署と考えていきたい。
- 了解した。展開の仕方はその考えでよいと思う。委員の御意見はいかがか。
- 基本的な考え方は今の考えでよいと思う。ただし、福岡県は自然環境に関するデータが非常に少ないため、補完していかないとワンヘルスの施策が作れないのではと懸念する。
- ワンヘルスが入ることについては皆さん異議なしということで了解した。
- 循環型社会の柱のところで「持続可能な消費と生産」の内容について、委員の意見はいかがか。
- 持続可能な生産の議論は昔からあるが、消費の議論はもっとした方がよい。ただしペットボトルや袋などの話に終始してしまうと住民はあまり興味がないので SDGs に結び付けて話した方がよい。
- なお、小テーマレベルで SDGs を出すと全体に関わってしまい扱いにくいので、コラムなどで説明すると分かりやすい。これは、先ほどのワンヘルスも同様で、自治体レベルでは外来種や家畜などの調査が環境部署の仕事になると思うので、場合によっては小テーマの名前からワンヘルスを外して、コラムなどで丁寧に説明する方が分かりやすい。
- 循環型社会の柱の、「海洋プラスチック等の海岸漂着物～」について、発生源は中国や東南アジアが大部分なので、県だけで努力してもどうにもならない。小テーマでなく、プラスチック廃棄物の削減などの下に置いた方がよいのではないか。

(4-3) 環境総合ビジョン 素案について

(事務局から説明)

- 素案について、資料9に沿って説明。

(5) 新国富指標の活用について

(馬奈木委員から説明)

- 資料10に沿って説明。

(委員質問・意見)

- 今回の素案は現時点の記載であり、脱炭素の部分については4月22日(温室効果ガス46%削減目標の表明)以降の変化、プラスチックについては国会で審議中のプラスチック資源循環促進法案などの動きがあり、今後これらの内容についても盛り込んでいく必要がある。
- 17ページに災害廃棄物が記載されているが、環境に関心のない方も興味を持ちやすいテーマであり、福岡・九州の特徴でもある。自治体間の連携がこの間どのように進んできたかや災害廃棄物の発生量などについても御紹介いただきたい。
- 現段階では特に意見なし。
- 8ページの7本の柱について、イメージ図が「柱」に見えない。一目でわかるようなデザインがよい。
- 素案2ページにプラスチック問題が記載されているが、他の委員からも指摘があったとおり、海洋プラスチックも含めて、どのように記載するかは要検討と思う。
- 難しい言葉や概念があるので、SDGsについてしっかり説明されているように、難しい言葉については、コラムや囲み記事等で丁寧に説明した方がよい。
- それでは、今回出された要望については事務局にて検討すること。また、委員の先生方も追加の意見があれば1週間をめぐりに事務局に送っていただきたい。次回は、これから5年間かけて取り組む施策等についても織り込んだものが提示されるので御議論いただきたい。